

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400348	
法人名	医療法人社団もりもと	
事業所名	グループホームともさん家(ともさん家) まとめ	
所在地	東伯郡琴浦町逢東1213-1	
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地
訪問調査日	令和5年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手作業中心に出来る事は行っていただき、活動の意欲向上に繋げています。
誕生日にはご本人の希望により食べたい物を提供し満足していただいています。
看護師が常勤で勤務しており、隣接の診療所と連携しています。
24時間診療所と連絡が取れる体制が築いてあり、急変時等早期対応が可能です。
入居されてから看取りまでを医療・介護で支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の診療所と連携して訪問診療を行い、緊急時や重度化終末期にも対応し、安心安全な医療体制をとっている。
利用者の食事は法人の厨房から配食され、嗜好や食形態、希望の誕生日メニューも提供している。
排泄ケアでは、オムツフッターの資格を持つ看護師と共に利用者に合った下着を検討している。
災害訓練は法人の事業所と連携し、見守り担当・訓練者担当それぞれ振り返り用紙を活用して実施している。
非常食の備蓄は3日間に分けて整理し、持ち出しやすいよう工夫している。また、試食訓練も実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、共に共有し実践へ繋がるよう努力はしている。	誰でも目につきやすいように理念・外部評価結果を玄関と食堂に掲示して実践につながるように工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流できていないが、定期的に近隣の美容室に散髪を依頼していただいた。又、今年は秋祭りに参加した。	コロナ禍で交流が難しかったが、今年地域秋祭りに参加出来、交流を深めることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、サービス内容等を明らかにし、サービスの質の確保、向上を図っている。入居者も会議に参加して頂いている。	2か月に1回の運営推進会議ではサービスの実際や問題点を挙げ、具体的な対策について意見交換している。入居者の参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告事項、疑問等必要な事は、電話やメールでやり取りし連携している。運営推進会議でも伝えている。	町のすこやか健康課の担当者が、運営推進会議のメンバーでもあり、問題点については、電話やメールで連絡を取りながら解決に向けて取り組んでいる。また、年2回近隣のGH(グループホーム)連絡会でも連携しサービス向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を開催し理解している。アンケートを実施し集計後、身体拘束をしないケアについて皆で話し合っている。院内研修会で発表し、職員全員に周知した。	ホーム内で3ヶ月に1回勉強会を開催している。また、年1回の法人全体の院内研修会では発表し、職員全員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内研修会で高齢者虐待防止関連法について学んだ。虐待の芽チェックリストを活用し、虐待の芽や不適切ケアを自己チェックした。虐待が見過ごされる事のないよう日々気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいる。保佐人と情報共有し連携をとっている。職員も12月に権利擁護について学ぶ機会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、契約書の説明をし家族が不安や疑問に思っていることを十分説明し理解していただいている。その後も疑問等ある時は電話、対面、お手紙で対応し入居者、家族も安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し意見、要望を日々の業務に反映させている。	家族等の満足度アンケートの回収率は比較的良い。意見や要望に応じられるよう改善したり日々の業務に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンスを開催するようにしている。意見、提案等があれば、チームで話し合い業務に活かしている。ホワイトボード、申し送りノートも共有手段として活用している。	毎月のカンファレンス(職員会議)で意見交換を行い「申し送りノート」を共有しながら全員に周知している。	職員の意見を吸い上げるため、個人面談も検討してはどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がタイムカードを毎月確認し、労働時間・勤務状況・体調等を把握している。面談の機会を設け、各自のやりがいや職務上の悩みなども出来る限り把握し、働き甲斐のある職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で感染対策を行った上で会場を分散して開催したり、オンライン研修の参加、また、DVD・研修資料を見てアンケート提出する形での研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修に参加した。オンライン研修等で交流することもあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、孤独等思いを傾聴、共感し、その方の居場所を作り関わりをを多くもち関係作りに努めている。また、ご家族との関係を良好に維持できるよう感染対策を講じながら面会等行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを受けとめ、ご家族が来訪したり話がしやすい関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく聞きとりをおこないアセスメントをしてニーズを把握し、必要な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や人生歴から出来ることを把握し、役割として職員からお願いしたり、労いの言葉をかけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回機関紙を発行し日々の様子を伝えている。 感染対策をしての面会や電話でご家族と会話する時間を持ってもらい一緒に過ごせる時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会で家族の方、友人の方との時間を大切にしている。遠方の方と、電話で話をしながら交流を維持している。	現在は家族や友人の面会を受けるようになり、なじみの人とも会っている。また、電話やメールでも交流を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人を同テーブルにしたり、利用者同士で作業等して頂き、お互い支え合えるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆にはお供えをさせて頂き、その後のご家族の様子を聞き取りしている。また、グループホームでの様子を写真にしてお渡ししたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、要望や意見を聞き出すよう努力している。	ふだんのかかわりの中で思いを把握している。表情が少ない利用者については家族からも以前の様子を聞き取り、本人本位に意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中で情報収集をし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う行動、言動の時は関わり合いを多く持ち様子観察し、職員同士で話し合っている。又、介護記録に残し職員で共有している。必要に応じて医療とも連携している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気になる事を職員で話し合いより良いケアが出来るよう検討している。必要な時は、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士と話し合い、介護計画に反映させている。家族には連絡をとり意見を聞いている。	月1回カンファレンスでケアの話し合いをし、職員との共有を図っている。また、6か月に1回の介護計画の見直しには家族や他職種の意見も反映させ、計画に活かしている。	できるだけ家族と対面で担当者会議を開催し、意見の反映に努めてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を観察し記録に残している。又、他職種との連携をとり日々のケアに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応できるよう職員、ケアマネ、他職種と相談しながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類感染症になり、少しずつ外出等交流の場が出来てきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療で病状把握されており、かかりつけ医により適切な医療が受けられるように支援している。特変があった時はすぐに連絡している。	2週間に1回の訪問診療を受け、緊急時も連携をとり、安心安全な医療体制をとっている。また、歯科の往診や、皮膚科や耳鼻科受診も職員や家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気付いたことをGHの看護師に相談し適切な受診が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院当初より早期退院に向けて地域連携室と情報交換し、こまめに連携をとるようにはしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時事前に終末期の事を説明し同意を得て、書面で交付している。医師、看護師、家族と共に病状説明に職員も立ち合い終末期の過ごし方など話し合いをしている。また内容を書面で交付している。ご家族の思いを受け止め意向に沿えるよう支援している。ご家族との連絡を密にとり、状態の変化を伝えている。	★重度化や終末期に向けた家族の思いを尊重し、医師や介護職員と十分話し合い、看取りの希望があれば家族付き添いも含め、意向に沿えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応できるように勉強会で身に付けている。マニュアル作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練を夜間想定で実施している。入居者が不安にならないよう行っている。BCP委員会を設け地震や水害に備えている。非常食の備蓄をしており、実際に職員が提供できるよう訓練している。地域の方に訓練への参加を依頼しているがまだ参加には至っていない。	★年2回の避難訓練では、法人内事業所と連携し、見学者・訓練参加者の振り返りシートの活用や非常食の搬送と利用者の試食訓練、緊急連絡網の活用など工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊重しプライバシーに配慮し、一人ひとりの状況に応じた声掛け等対応出来る様心掛けている。	一人ひとりの状況に応じた声掛けをするように心掛けている。難聴の利用者に小声で伝わりにくい場合があるが、ゆっくりと聞き取れる側から目を見て話し、言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員都合にならないよう自己決定出来る環境をつくり声掛けを行っている。思いを傾聴し共感している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いや希望を受け止め、一人ひとりに添った生活を送れるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に鏡を見ていただき、クシで髪がとける方にはといていただいたり身だしなみを整えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、事前に食べたい物を聞き取り提供している。 又、利用者と一緒におやつ作りを行っている。	月に2回ぐらいおやつ作り(お好み焼きやホットケーキ)をしたり、差し入れの果物をみんなで一緒に食べ、楽しんでいる。また、利用者と職員が具材を切る等の準備もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々一人ひとりの水分量、食事量をその都度記録し確保できるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で出来る方は自分で、出来ない方は介助で口腔ケアを行っている。義歯や舌等口腔内の確認を行っている。義歯や口腔内に不具合がある方は受診して頂いている。通院が困難な方などは訪問歯科診療も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を把握し声掛けをしている。どのような時に汚染、失敗しているのか職員で情報を共有し、時間の変更、パットの検討をしている。パットの利用についてはオムツフッターの資格を持つ看護師に相談し、その人に合った下着の利用を検討している。	★一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員間で情報を共有している。その都度オムツフッターの資格を持つ看護師に相談しながら、その人に合った下着の利用を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、オリゴ糖などで排便を促している。日中の活動量を上げたり、水分を多く摂ってもらっている。排便困難な時はGHの看護師に相談し医師に連絡していただき指示を仰ぐようしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴が出来ない週がある。入浴日に入れなかった時は曜日変更している。当日の体調にも配慮し、無理強いせず入浴してもらっている。	週2回午前中に入浴をしている。入浴を嫌がる利用者に対しては無理じいせず曜日を変えたり、シャワー浴や清拭で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、居室でゆっくり休んでいただいている利用者もある。夜間は各々照明や温度、布団の調整を行い安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を服用する時は声に出しWチェックし誤薬がないようにしている。朝、昼、夕と色分けし間違いないようにしている。体調の変化がある時は看護師に相談し医師に連絡してもらい連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションに参加し楽しんでもらっている。誕生日には食べたい物を厨房で作っていただき皆でお祝いをしている。洗濯干し、洗濯たたみ、手作業等して頂き労うよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は少ないが、ドライブや散歩を楽しんだ。今年はやめ池に出かけた。家が見たいと要望があったときはドライブがてら出かけた。	希望に沿った外出はなかなか難しいが、出来る時は2人～3人でドライブをしている。今年はやめ池に出かけた。	天気の良い日にはドライブだけではなく、近くの公園やホームの周りの散歩など気軽に出かけてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがあればご本人が職員にお金を渡し買い物に依頼される。金銭の確認は職員とともにやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかってきた時はとりつき会話されている。ご友人と手紙のやり取りをされている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ温度、湿度に気をつけている。又、利用者からの要望があった時にはその都度応じ、照明にも気をつけて快適に過ごせる空間作りをしている。	食堂に誕生日と干支を表示した大きな顔写真を貼り、利用者同士の会話のきっかけになっている。また、行事の写真やもみじやイチヨウなど落ち葉の作品を展示して季節感も取り入れている。掃除は外部委託となり、いつもきれいである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じテーブルの方と会話をしたり、洗濯たたみ、洗濯干し、パズル等手作業をしていたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に自宅での様子や馴染みの物等を聞きとりながら持ち込んでいただいたりしながら落ち着いて過ごせるように工夫している。	家族や本人に聞き取りをしながら、使い慣れたベットやタンスを持ち込んでいる。清潔を保つために居室の掃除やシーツ交換は介護助手が毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア一歩行や居室清掃等、一人ひとりの能力を職員が日々の生活の中で見極め出来ることはしていただいている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400348		
法人名	医療法人社団もりもと		
事業所名	グループホームともさん家(いくさん家)		
所在地	東伯郡琴浦町逢東1213-1		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎月両家合同で行事を設定し、毎月利用者の方楽しんでいただいています。個別運動を行い、機能維持に取り組んでいます。看護師が常勤で勤務しており、隣接の医院と連携しています。24時間医院と連絡が取れる体制が築いてあり、急変時等早期対応が可能です。入居してから看取りまでを看護・介護で支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と方針を掲示し、理解を深め、日々職員同士共有しながらケアにあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で日常的な交流が乏しくなっているが、定期的に近隣の美容室に依頼し散髪で来訪して頂いている。 今年は地域の秋祭りが再開し参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、取り組み等報告している。意見を取り入れ、日常のサービスの中で工夫をしている。書面会議での開催であったが、コロナ感染症5類移行以降対面での会議を開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加以外で、入居者のことについて相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に「身体の不拘束」を明記し説明をし家族の方に理解して頂いている。 GH内で3ヶ月に1回の身体拘束の勉強会をし、身体拘束について理解をしケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせ虐待が起こらないよう勉強会を行っている。また、虐待の芽を見つけるアンケートを行い、結果を共有し職員同士注意し合える関係作りを心掛け日々のケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修を行い、理解に努めている。個々の必要性について具体的な活用とは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約書、重要事項説明書を用い説明し、不安、疑問点を尋ねている。また、疑問点等あればいつでも電話等で応じるよう伝え、安心して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートを実施し、意見の収集、報告を行い運営の向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々話し易い環境作りを行う様努めている。月1回カンファレンスを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。勤務体制によっては行えない月もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がタイムカードを毎月確認し、労働時間・勤務状況・体調等を把握している。面談の機会を設け、各自のやりがいや職務上の悩みなども出来る限り把握し、働き甲斐のある職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で感染対策を行った上で会場を分散して開催したり、オンライン研修の参加、また、DVD・研修資料を見てアンケート提出する形での研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修、他事業所との意見交換の機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動等を常に気につけ、不安な事、困っている事等受け止めるよう努力している。ご家族との関係が途切れないよう面会等の機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に情報や不安に思う事、要望等をケアプランに反映させている。又、面会時には、不安な事、要望等を受け入れ話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族を含めて聞き取り、必要な支援が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にとって苦にならないよう配慮しながら出来る事はしていただいている。共同作業をしたり、レクリエーションの場を設けながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月機関紙を発行し、家族の方に日々の様子を知らせている。又、家族の方から手紙や電話、メール等をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外へ出向く事は出来なかったが、馴染みの方の面会があった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して、日々穏やかに過ごせる様席を変えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆にはお供えをさせて頂き、その後のご家族の様子聞き取りをしている。また、グループホームでの様子を写真にしてお渡ししたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人の希望ややってみよう事等、聞き取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、在宅時担当していた介護支援専門員からの聞き取りでご本人の生活歴や馴染みの生活など把握し情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェック、1回/月の体重測定を実施している。 その都度水分、食事量、排泄状況等を記録し職員で情報共有している。合わせて身体機能の変化も確認し共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年4回理学療法士に身体機能や動作についての評価を受け、機能訓練内容について相談し介護計画に反映させている。また、モニタリングを行い実施状況の確認を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や個別のケアの実践・その様子を記録に記入し、気づきやケアの工夫等も合わせて記入している。また、その内容を職員間で周知できるよう申し送りノートにも記入し情報共有出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調等踏まえながら、苦痛にならない様、その都度柔軟に支援する様心掛けています。又、利用者の状況や状態が変化した場合、他職種と連携し、指示を頂いて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブを兼ねた外出を行った。今後コロナの動向をみながら買い物、毎月お茶会の再開などが出来たらと考えている。今年度は地域の行事が再開したこともあり、秋祭りに参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、又は、ご家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築いている。月2回の訪問診療を受けたり、通院の同行支援等している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で気づいた事や情報は迅速に看護師等に伝えて、確認、相談をしており、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。また、その都度指示を頂き対応出来るよう連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院はなかったが、病院関係者との情報交換や相談が出来るよう体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は主治医、職員、ご家族で病状説明に立ち合い今後の方針等決めている。またご本人の思いをしっかりとくみ取り、思いに沿えるよう職員で共有し合い支援に取り組んでいる。ご家族への状態の報告も密に行い、痛みの緩和についてなどご本人の意向も踏まえながら起こりうる状況を伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、マニュアルに沿って行動し、対応している。また、その内容や対応についてもご家族に伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施。又避難訓練とは別に、自然災害時における食事提供を円滑に行うため非常食訓練を実施した。地震、水害時についてはシミュレーションを行い動き方等の確認をしていく。同区の民生委員・区長にも避難訓練の案内を送付し運営推進会議でも協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳、尊重を大切にしながら、一人ひとりに合った声掛けをするように心掛けている。又、言葉による虐待についてGH内で勉強会を実施し理解を深め、日々のケアにあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、自己決定出来るような声掛けと環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合にならない様、常にその利用者のペースで過ごせる様、また、一人ひとりの希望を聞き、それに沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には、朝の整容、衣類の選択を行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ易い様に形態や食器を検討したり、栄養士と相談をして食事を提供している。誕生日には、本人の食べたいメニューを聞き取り、食べていただいている。おやつ作りの際は一緒に準備していただいた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスのとれた献立を作成し給食で提供している。飲み物は小まめに提供したり、ゼリーにしたりしながらご本人の摂取しやすい形態の把握・提供に努めている。食事量、水分量はその都度記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、仕上げを職員が行い義歯や舌等口腔内の確認も行っている。又、口腔内の異常や義歯が合わない等あれば歯科受診を提案し勧めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を把握し、声掛けをしている。どのような時に汚染、失敗があるのか職員間で情報を共有し排泄の自立に努めている。オムツフィッターの資格を持つ看護師から助言をいただき、その人に合ったものを使用出来るよう検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や寒天を使用したり、毎朝牛乳を提供したり工夫している。食事量、水分摂取量には常に意識しながら取り組んでいる。また、個別の運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。入浴拒否のある方もあり時間をずらして声掛けしたり曜日を変わったりしながら入浴して頂いているが、週1回の入浴の時もある。状態によっては清拭をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に居室で休まれる利用者もある。季節毎に冷暖房や、寝具等の調整を職員が行っている。また、夜間のトイレの際の転倒予防に足元を照らすライト(感知式)を使用されている方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方に変更があった場合はご本人の様子の変化に気を付ける様職員同士申し送りをしている。何か症状あれば看護師に相談し対応している。朝昼夕と色分けをし投薬時ダブルチェックで誤薬ないようにしている。飲み込み等確認し、薬の形態も検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、毎月の行事に参加していただき楽しんでいただいている。誕生日には食べたいメニューを提供している。又、洗濯たたみ等手作業をしていただき労いの言葉をかける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年に続きコロナ禍の為、積極的な外出支援は出来ていないが、感染対策をしながらドライブや散策を楽しんだ。家が見たいと要望があった時はドライブがてら出掛けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が所持し、職員と一緒に金銭の確認をしている方が1名ある。 今後、コロナ等の動向をみながら、必要な物があれば一緒に買い物等に出かけたいと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人からの電話や手紙のやりとりをしている。年賀状をもらったりメールが届く方もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度、照明等に配慮しながら居心地の良い空間作りを行っている。 日光の調節、TVの音量、職員の声の大きさも注意する様にしている。 季節に応じた装飾を飾ったりして季節を感じていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごせる様、居心地の良い環境整備作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、又、入居後に自宅で使用していた物や馴染みの物、写真等を持ってきて頂き、極力不安を解消し安心して過ごして頂けるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常にその人に今何が出来るのかを見極め、安全を考慮しながら自立した生活が出来るよう工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームともさん家

目標達成計画

作成日: 令和6年3月14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	出来るだけ家族と対面で担当者会議を開催し、意見の反映に努めてほしい	担当者会議を対面で行い、意見の聞き取りを行う。	担当者会議の開催に合わせてご家族と連絡を取る。 普段から状態の連絡を行い、ご家族に意見を伝えてもらいやすくする。	6ヶ月
2	49	天気の良い日にはドライブだけではなく、近くの公園やホームの周りの散歩など気軽に出かけてはどうか。	感染対策を取りながら、散歩やドライブに出かける。	天気や人員配置を考慮して、外出・散歩をする。	3ヶ月
3	11	職員の意見を吸い上げるため、個人面談も検討してはどうか。	面談の機会を持つ	面談の予定をたてて、順次意見の吸い上げを行う。	6ヶ月
4					
5					
6					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。